

カーネーション(ダイアンサス系)
Dianthus hybridus
 (ナデシコ科)

ヒゲナデシコ*D. barbatus*, タツタナデシコ*D. plumarius*, カワラナデシコ*D. superbus*などのナデシコとカーネーションとの交配により作出されたソネット系やジプシー系などの切り花用カーネーションの一群で、スプレー状に開花する。カジュアルなイメージが強く、束売りの花にも利用され、家庭消費に適する。花色はスプレーカーネーションほど多様ではない。また、一重咲きの品種も多い。小花の老化様式はスタンダードタイプと同様で、STS処理が必須である。蕾の開花には糖処理が有効であり、花色の退色も糖処理により抑制される。品種にもよるが、スプレーカーネーションより日持ちが劣る。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の開花・老化	A: 1次花蕾のうち1~2輪がブラシ状あるいは開花する B: 2次花蕾がおおむね開花する C: 先に開花した小花が老化を始める D: 老化していない小花が全小花の1/3以下となる	小花の老化の判定は、花弁の萎れ、花弁の褐変・変色・退色の程度による。老化した小花は摘除してもよい。
花弁の萎れ	触ってみて A: 張りがある C: やや軟となる 視覚的に D: 花弁先がやや内側に巻き萎れる	
花弁の褐変・変色	A: 褐変・変色なし B: やや退色する C: 外側の花弁に一部褐変・変色あるいは小斑点が生じる D: 花の中心付近も褐変・変色する	
茎葉の萎れ	触ってみて A: 張りがある B: やや軟となる 視覚的に C: 茎葉に艶がなくなる D: 萎れて葉が垂れ下がる	
灰色カビ病	A: 発生なし 花弁またはがくに C: 小斑点が生じる D: 大斑点(5mm以上)となる	
その他	茎基部の腐り、茎葉・がく片の黄変・褐変、C: 軟弱茎、D: 茎折れなど。	

2) 留意点

栽培中にアザミウマが蕾に入ると、開花後の小花の花弁に斑が入り萎縮する。このような切り花は評価対象外とする。

品質評価開始時点でSTS過剰障害が強く認められる切り花は評価対象外とする。

通常頂花は栽培時点で摘除されている。評価開始時点で開花の見込める小花数(つぼみ+開花)を数え、以後開花数、老化数を数える。老化した小花は摘除してもよい。

多湿下で灰色カビ病が発生しやすく、発生した小花は直ちに取り除く。

3) 開花



4) チェック事項



小花の老化



茎葉・がくの黄変